

科目	地域作業療法学	担当	大浦 智子	履修学年	3年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	必修	単位数	2単位

【授業目標・到達目標】

地域で生活を送る障害者(児)や高齢者に関連する法制度および施策等、地域における作業療法士の役割について学ぶ。具体的には、①地域リハビリテーションシステムとしての病院・施設・在宅サービスにおける作業療法士の役割、②対象者が利用できるサービス内容、③地域生活者である個人の作業療法評価について説明できるようになることを目標とする。

【履修注意】

これまでに学んだ専門領域の知識が総合的に求められるので、知識の整理をしたうえで受講すること。グループ討議を有益にするために、復習だけでなく事前に提示する課題は必ず行って講義に参加すること。

自ら学ぶ意欲、疑問点を調べる探究心を持ち、積極的な姿勢で取り組むこと。

【評価方法】

筆記試験、レポート課題、出席状況、受講態度等を総合し評定する。

【試験について】

筆記試験

再試験対象者の条件： 総合評価60点未満

【予習・復習】

履修注意のとおり。必要に応じて、随時提示。

【教科書】

書籍名：作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 地域作業療法学 監修：長崎重信 編集：徳永千尋・田村孝司

出版社：メジカルビュー社（購入済）

【参考書】

書籍名：図解作業療法技術ガイド 第3版 編集主幹：石川齊・古川宏 出版社：文光堂

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	地域リハビリテーションの概念	地域リハビリテーションの定義、目的、地域作業療法
2	連携、リスク管理	地域における連携、リスク管理
3	介護保険	介護保険サービスとケアプラン(居宅)
4	介護保険	介護保険サービスとケアプラン(施設)
5	在宅リハビリテーション①	ニーズの概念、生活環境整備の着眼点、家族の理解
6	在宅リハビリテーション②	疾病・障害の経過とリハビリテーション
7	地域作業療法の実践①	生活期のリハビリテーション、在宅復帰支援
8	地域作業療法の実践②	在宅リハビリテーション(通所、訪問)①
9	地域作業療法の実践③	在宅リハビリテーション(通所、訪問)②
10	中間まとめ	中間まとめ
11	地域における作業療法評価計画	事例を通じた地域作業療法：障害と生活の理解、評価計画
12	地域における作業療法評価	事例を通じた地域作業療法：評価結果の理解、課題の分析
13	地域における作業療法目標設定	事例を通じた地域作業療法：目標の種類
14	地域における作業療法計画立案	事例を通じた地域作業療法：支援計画、多職種連携
15	まとめ	まとめ
16	期末試験	15回の復習・確認・総まとめ